広報伊方町

発行所
愛媛県西宇和郡
伊方町
編集
町長公室
印刷所
尾上印刷所
八幡浜市天神通
電話 ㊀0091番

きょうは楽しい七夕祭

願いごとが かなうといいですネ

七月七日は七夕祭！川永田保育所では、園児とお母さんがいっしょになって歌やゲームで七夕祭を楽しみました。

子どもたちは、短ざくに小さな胸を大きくふくらまして、それぞれの願いを絵や文字にして書きました。

みみ、美しく飾りつけました。

「良い子になりますように」

「お絵かきが上手になりますように」

など、子どもの純粋な気持ちをよく表わしたものが多くありました。

夜空にキラキラ輝く彦星さん、織姫さんも年に一度の出逢いの日です。

こうした子どもたちの願いことをもきっと、かなえてくれることでしょう。

ぼく彦星、わたしは織姫星!!

子どもたちには、それぞれの夢があります。
こうした夢を大切に育てるには、大人のやさしい心づかいと協力が必要です。
みんなであたたかく見守ってやり、次代の担い手を大きく育てましょう。 夜空に輝く星のように……

（第八十五回定例町議会報告）

伊方小校舎改築費など三億五百万円ふやす

伊方町議会第八十五回定例会は七月八日（会期一日間）開催され、昭和五十一年度一般会計補正予算（第二号）、（第三号）、昭和五十年度水道事業会計決算の認定、公園施設の設置についてなど十二議案が上程されました。

主な議案はつぎのとおりです。

◎固定資産評価審査委員に山下氏

景風会議町

固定資産評価審査委員会委員の選任

昭和五十一年六月二十二日をもって任期満了の固定資産評価審査委員に山下春義氏（田之浦）が選任されました。

任期は五十四年六月二十一日までの三カ年です。

こんど固定資産税の課税について不平、不満の申し出があった場合、固定資産評価審査委員会を開き検討しますが、その委員の一人として活躍いただきます。

各議案とも慎重審議の結果、全議案原案どおり可決されました。

◎手数料徴収条例の一部改正

印鑑証明、住民票（写）などの手数料が改正され、八月一日から施行されます。

この一部改正の内容については別欄で紹介していますのでご一読ください。

◎昭和五十一年度一般会計補正予算（第二号）、（第三号）

今回三億四百九十一万円補正され、予算総額は十七億五千六百十三万円になりました。

こんどの補正予算は伊方小学校危険校舎の改築費、豊之浦、奥、大成三部落の集会所建設費、九町地区土地造成受託事業などが主に計上されていますが、その内容については別記しています。

◎昭和五十一年度学校給食特別会計補正予算（第一号）

四百六十六万円追加され予算額は四千三百七十九万円になりました。これは賄材料費の値上げ等により六月から給食費のアップがなされたため予算措置したものです。

給食費は小学校が一食当り百十五円から百三十円に、中学校は百三十円から百五十円になりました。

このアップ分の費用は、すべて賄材料費に使われます。

水道事業会計

四年ぶりに黒字決算

◎昭和五十年度水道事業会計決算の認定

昭和四十七年以来連続して赤字決算でしたが、五十年度においては少額ながら三万二千円の黒字決算となりました。

九町越公園に展示館

（原子力館）

◎公園施設の設置について

四国電力株式会社から町へ九町越公園の施設設置許可申請がでていましたが、町の公園の設置及び管理に関する条例の規定によって議会に提案し、審議されその施設設置の許可を議決しました。

その施設とは、九町越公園内に四国電力株式会社が原子力に関する知識の普及を図るため建築延面積一千四十平方メートルの規模を有する展示館（原子力館）を建設するものです。

伊方小改築 特別委員会できる

今回の定例議会で伊方小学校改築特別委員会が設置されました。

従来も大規模予算で学校等の改築をする場合、そのつど特別委員会を設置して、校舎改築計画の具体策を図るほか早期改築実現を期すものです。

◎は委員長 ○は副委員長

◎中元清吉 加藤愈一
矢野吉衛 篠川英一
木戸市弘 井上鶴敏
山口兼夫○福田 弘
梶田忠義 （敬称略 議席順）

委員さんはつぎのとおりです。

補正された予算を見る

豊之浦・奥・大成に集会所を建設

こんどの議会で補正された予算内容を簡単に見てみましょう。

◎総務費

○中之浜、仁田之浜マイク放送施設助成金十万円

○交通安全回転灯新設費七万円

○ガードレール新設工事費＝大浜延長十五メートル＝二十一万円

○大成集会所建設費一千百二十五万円

○豊之浦、奥両集会所建設費に二千五百八十九万円

◎民生費

○季節移動労働者援護対策事業に二十八万円。この事業は町内の出かせぎ者が働きに行く前に集団で検診（検尿、心電図、血圧等）を実施し、安全就労のための費用です。

◎衛生費

○大成、湊浦寺川の排水路整備事三百八十五万円プラスされ七百六十四万円になりました。

○生活環境施設整備事業百十二万円

◎農林水産業費

○町見中央農道整備事業一千六百三十七万円

○畑地帯総合整備事業（仁田之浜、古屋敷）六百四十二万円増額され総額八千五百十六万円になりました。

○農道舗装（豊之浦、仁田之浜）に五百九十万円追加され一千二百九十万円になりました。

○黒島荷揚突堤新設事業三百六十万円。黒島の宮の浦と小城浦の二カ所に新設するもので宮の浦に五百二十万円追加され一千二百七十二万円になりました。

◎土木費

○町道立神線整備事業一千八百万円。同線を現在の幅員二、五メートルを四メートルに拡幅するものです。

○港湾整備事業（小中浦、湊浦、大浜、仁田之浜）三百五十五万円追加され総計で三千八百五万円になりました。

◎消防費

○豊之浦防火水槽（七十トン級）新設工事費百七十万円。

○中浦定置配管整備事業七十一万円。中浦の国道端から町営住宅までの八十メートル、法通寺までの二百十メートルを送水管布設するものです。

◎教育費

伊方小学校危険校舎改築工事費一億七千百五十八万円。このほか設計監理委託料五百八十五万円を含めますと総額一億七千七百四十三万円になります。

同校の危険校舎は昭和十四年に建設され三十七カ年の風雨に耐えてきましたが、今回改築に踏みきったわけです。建物は鉄筋コンクリート三階建、延面積一千六百二十五平方メートルを有する立派な建物に生まれかわります。

◎諸支出金

○九町地区（向部落前水田跡）土地造成受託事業二千五百万円

この事業は、四国電力株式会社が購入している向部落前の水田跡地約八千平方メートルを、同社から町が受託して埋立て工事を行い土地造成するものです（この予算のみ一般会計第三号補正予算で計上されました）

印鑑証明・住民票（写）など 手数料を改正

＝八月一日から実施＝

印鑑証明や住民票の謄、抄本の交付手数料は、町の条例できめられています。

戸籍の手数料が、五月一日から政令の改正で引き上げられたことや、近隣の市町村との均こうを保つことなどから、このほど伊方町手数料徴収条例の一部が改正されました。八月一日から実施されますが、改正の主な内容は次表のとおりです。

証明書等交付手数料

種別		新	現
印鑑登録証明	1件	100円	70円
印鑑登録証の交付	〃	100円	100円
住民票の写	〃	100円	70円
戸籍附票の写	〃	100円	70円
本籍、住所、氏名、年令、身分等に関する証明	〃	100円	70円
公祖、公課、土地、建物等に関する証明	〃	100円	70円
公簿、図書類の謄、抄本の交付	1枚	100円	70円
住民票、戸簿附票、その他公簿、図書類等の閲覧	1件	100円	70円
転出証明書	〃	50円	50円

進む監視体制づくり
環境監視委員きまる
会長 山本町長
副会長に辻議長・小川氏を選任

伊方町環境監視委員会条例が五日二十五日に開催された第五十六回臨時町議会で審議し、制定されたことについては、先月号の広報紙でその内容を紹介しています。

この幹事会で行うほか、委員会が、環境監視委員会の委員さんと会議に提出する事項をとりまとめます。

この環境監視委員会は、伊方原子力発電所周辺地域の環境放射能や温排水、それと原子力発電所の運転、管理に関し、その状況を調査し安全確保と環境の保全について確認するため条例化し設置されたものです。

委員会は二十三人で構成され、町内の学識経験者とか、団体役職員の中から適任者を町長が委嘱または任命したもので、任期は二年間です。

また委員会の中に幹事会を置くことになり、町の監視体制づくりができあがったわけですが、まず手はじめに県が設置して町が委託管理しているモニタリングステイション（九町越公園内）とか、モニタリングポイント（町内九カ所、松山一カ所）等の測定施設や原子力発電所現地を視察見学する勉強会を早急に開くなどして、知識の取得を主眼に置き各種の研修がなされます。

環境監視委員さん、幹事さんはつぎの方々です。

23人の委員さんが委嘱され、町の環境監視体制ができあがりました。

なお委員会の初会合が七月一日役場会議室で行われ、その席上、会長は条例に基づいて町長が就任し、副会長には委員のうちから互選の結果、辻町議会議長、小川文一郎氏（医師）の二人が選任されました。

これで委員会が正式発足したこと

◎伊方町環境監視委員会委員

（伊方町）

町長　山本長松
教育長　高月歌芳
町見支所長　林　毅
企画財政課長　桝田佳明
（町議会）
議長　辻　忠義
総務厚生常任委員長　矢野吉衛
産業建設常任委員長　篠川英一
原電対策特別委員長　木戸市弘
（各種団体）
伊方町農業協同組合長　浜口旭
町見　〃　辻成
伊方町漁業協同組合長　井上吉佐太
有寿来　〃　小野上要
町見　〃　重岡寮男
伊方町商工会長　松下鶴行
区長会会長　阿部嘉明
青年団協議会長　兵頭照正
町連合婦人会長　菊池マシエ
町連合PTA会長　宇都宮正義
伊方中学校長　坂本力
町見　〃　小川文一郎
学識経験者（医師）
〃（〃）　栗田龍彦
〃（〃）　宇高正夫

◎伊方町環境監視委員会幹事

伊方町
助役　福田直吉
生活環境課長　成田希儀
産業課長　西田恵明
企画財政課長　桝田佳明
教育次長　田中発
中央公民館副館長　畑中芳久
町見　〃　大山忠義
各種団体
伊方町農協参事　福田幸夫
町見農協職員　上田実彦
伊方町漁協理事　井上忠孝
有寿来漁協理事　宮本泰行
町見漁協理事　小島正
伊方中学校理科主任　宮原完夫
町見　〃　尾上弘基
（順不同・敬称略）

県でも環境安全管理委員会が発足

愛媛県でも町よりひと足早い六月十一日伊方原子力環境安全管理委員会（構成人数二十五人）が発足しました。

会長に大西忠副知事、副会長は山本町長が選任されましたが、町側から町長のほか辻町議会議長がこの委員会のメンバーとして加わっています。

また、県の委員会の中にも町の幹事会にあたる技術専門部会（十人）があり、町からも桝田佳明企画財政課長が選任されています。

委員さん、部会委員さんはつぎのとおりです。

◎伊方町原子力発電所環境安全管理委員会委員

（学識経験者）
愛媛大学理学部教授　伊藤猛夫
〃　医学部　〃　浜本研
〃　工学部　〃　有吉弘
京都大学原子炉実験所教授　桂山幸典
理化学研究所研究員　岡野真治
国立高エネルギー物理学研究所教授　菊池健
（水産関係者）
県漁協連合会長　藤原勘一
伊予灘汚水公害対策協議会長　大元勝美
（農業関係者）
県農協中央会長　渡部高太郎
県農業会議会長　矢野弁介
（マスコミ関係者）
愛媛新聞社常務取締役　松下功
南海放送（株）取締役大西越丙
愛媛放送（株）常務取締役　乗松啓
（その他）
愛媛県医師会長　吉野章
県公害対策審議会長　米田正弐
（地元伊方町）
伊方町長　山本長松
伊方町議会議長　辻忠義
（県議会関係者）
県議会生活厚生委員長　楠橋光之助
（県関係者）
県副知事　大西忠
県参与　辻田善太郎
県生活環境部長　光宗開真
県商工労働部長　宮本紀
県農林水産部長　旅井理喜男
県保健部長　小川博
八幡浜県事務所長　藤岡照夫

◎伊方原子力発電所環境安全管理委員会技術専門部会委員

愛媛大学理学部教授　伊藤猛夫
〃　医学部　〃　浜本研
〃　工学部　〃　有吉弘
京都大学原子炉実験所教授　桂山幸典
理化学研究所研究員　岡野真治
国立高エネルギー物理学研究所教授　菊池健
県公害研究所長　松本良
〃農林水産部水産課技術課長補佐　和田進
県生活環境部公害課技術専門員　浮田道隆
伊方町企画財政課長　桝田佳明
（順不同・敬称略）

伊方越・亀浦地区
全体で五十一％の伸び
（地籍調査結果でる）

四十九年度に調査しました伊方越、亀浦両地区の地籍調査の結果がでました。その結果を下表のとおり紹介しています。

三月に県知事の認証があり、現在法務局で登記の修正を行っており、この修正が八月頃までかかります。

そのごは、地籍調査の結果の数字が適用になりますので伊方越、亀浦地区の土地関係者のみなさんは取扱いにご注意願います。

下表により、その調査結果をみてみますと、二地区全体で面積が五十一％伸びています。

特に他の地区では、山林の伸びが大きいのにくらべ亀浦地区の場合、畑が七十四％と大幅な伸びをしめしています。

いままでの調査を終了した地区ごとの面積の伸び具合を参考までに列記してみますと

大浜	二十三％
黒島	三十九％
中之浜	四十六％
仁田之浜	二十二％
河内	七十三％
伊方越	四十八％
亀浦	五十六％

となっており、河内の伸びが目立ちます。

なお、五十年度で湊浦一、二、小中浦、中浦地区の調査が終っており、現在事務的な整理が行われています。結果の公表は、明年五月頃の予定です。

ことしは川永田一、二、豊之浦地区

五十一年度は川永田一、川永田二、豊之浦の三地区が実施されます。

既に各部落での説明会も終え、いよいよ現地測量に移るわけですが、この地籍調査は、みなさんもご存知のように正しい面積、はっきりとした境界が判明できる大切な調査です。

三地区の土地関係者のみなさん、この調査が能率よく進められるよう個人の境界線の刈りあらけ作業等ご協力をお願いします。

地籍調査結果表

地区名 / 項目 / 地目	伊方越 調査前 筆数	伊方越 調査前 面積(ha)	伊方越 調査後 筆数	伊方越 調査後 面積(ha)	亀浦 調査前 筆筆	亀浦 調査前 面積(ha)	亀浦 調査後 筆数	亀浦 調査後 面積(ha)
田	428	6.64	160	4.49	141	3.60	2	0.03
畑	990	34.53	709	51.32	635	33.13	558	57.62
宅地	122	1.87	93	2.17	117	1.88	96	1.97
山林	1,400	139.94	1,356	193.85	695	107.22	689	158.48
原野	168	3.28	168	6.41	114	2.88	74	2.27
墓地	66	0.13	99	0.45	68	0.14	97	0.24
公衆道路等	8	0.18		15.95	45	1.07		11.53
その他	13	0.49	37	1.31	8	0.25	42	1.70
合計	3,195	187.06	2,622	275.95	1,823	150.17	1,558	233.84

畑の伸び 49%　山林の伸び 39%　畑の伸び74%　山林の伸び48%
全体の伸び 48%　全体の伸び56%

2地区全体の伸びは51%、畑で61%、山林は43%の伸びでした。
調査前の面積は登記された面積で山道、河川等は含まれていませんが、調査後はすべて含まれています。

ハウスミカン
本格出荷もうすぐ
予想数量 六十六トン

大浜、中之浜地区の十戸の農家で栽培されているハウスミカンが色づきはじめ、いよいよ待望の本格的な出荷がはじまります。

このハウス栽培は、二年前から大浜地区三戸の農家で開始されたものですが、本年中之浜地区の農家も加わり栽培面積も一・二ヘクタール（昨年〇・三ヘクタール）となり、六十六トン（早生ミカン）が東京方面市場へ出荷が見込まれています。

ことしの場合、色づきはほぼ昨年と同じですが、適当な降雨の関係もあって玉太りは順調で、冬期の間精魂こめて栽培した苦労が報われるわけです。

緑一色のミカン園の中で夏の日ざしを浴び美しく映えるハウスの農家に成長した早生ミカンがみのり、（写真）農家の人たちは出荷を目前にして作業に精をだしています。

こうしたハウス栽培は、全国的に栽培面積も増えてきており、販売価格の面でちょっぴり心配です。

こんど〝ミカンの伊方〟としての農業経営はやはり柑橋栽培の道においてないと考えます。

こんど〝ミカンの伊方〟としてはキロ一当り平均価格七百二十円程度でしたが、全国的に生産量増の関係上、昨年度と同じぐらいか、まだ少し下まわるくらいが何よりも大切です。

本町のような地形、自然を生かして生き残って行くためには、農協、町、生産農家が一丸となってこのきびしい時代を乗り越えなくてはなりません。

それには、やはり個々の生産者の自覚と適切な指導によって、消費者に好まれるおいしいミカンづくりが何よりも大切です。

本町の農業経営は、ますます激化する中で、ハウス栽培とか品種更新によって、現在の危機を突破しようと農家のみなさんは懸命です。

ハウス栽培施設費や保温のために使用する燃料（重油）費が十アール当り約四百五十万円も投資を必要とし、一年目はこうした費用の償却費になってしまうとのことです。翌年から本格的な収入が農家に純益となって入ってくるわけです。

全国的に生産過剰のため、ミカンはだぶつき産地間競争はますます激化する中で、ハウス栽培とかもしれません。しかし、要は早い時期に如何にして多くの出荷ができるかが、価格の力を握っています」とのことです。

国民年金受給者のみなさん
住所を変更したら届出を

年金を受けている人が住所を変更したときは、すぐに「住所変更届」を提出してください。

もし、この届が遅れますと、銀行預金口座への年金振込通知や、郵便局への支払通知が、全部旧住所あてに送られますし、毎年一回提出する「現況届」の用紙の送り先なども同じようになりますので、年金を受けている人はたいへん困ることになります。

年金を正しく受けるため、住所を変更したときは、すみやかに「住所変更届」を提出しましょう。

変更届の用紙は、役場住民課国民年金係にあります。

海外の産業、文化、教育、経済などを、この目で確かめて体験し、これを地域や所属する団体などで積極的に生かして行こうと愛媛社会参加会議が主催して、毎年行われている青年海外研修。

ことしは五月十二日から二十五日までの十三泊十四日間、タイ、マレーシア、シンガポールの三カ国を訪問しました。県下三十四人の青年とともに、本町からは奥浦の清水幸雄さん、仁田之浜の畑中芳久さん＝中央公民館勤務＝、二見の山本睦夫さんの三人が参加されました。

その三人に訪問記をお願いして寄稿いただきました。

東南アジア（三カ国）訪問記

文化に欠ける日本

二見 山本 睦夫（二十四歳）

私が今回の研修を通じて一番良かったことは、何よりもまず自分の目で海外のようすを見ることができたことです。

私たちの見たのは、その国の一部にしかすぎず、それだけでその国について話すことはできませんが、私たちが見たものは間違いなく海外であります。帰ってからでもそれらの国々に関し、関心が高くなったということです。

それもうつは、私も青年団活動の中で団員同志でいろいろなことについて話し合うことも多く、それはそれで年齢の近い「若者の目」という意味でたいへんよいことですが、今回のように二十代もいれば三十代の人も、また独身がいれば、既婚者もいるということで、自分とは違った物の見方、考え方に接することができたことは収穫でした。

タイでの印象はメナム川を中心に非常に水路が発達していて日本で道路が発達して皆んなが車を持っているように、水路を小船がところせましと走っていて、生活の中心がこの川であり、水浴、洗たく、食事の後片づけ、子ども用便の姿までみて驚いたと同時に褐色の川の色も印象的でした。

また都市と田舎の差、貧富の差の大きさを見せられると同時にスラム街にも、みんなで金と労働力を出し合ってつくった立派な寺院のあるのを見て、宗教の力の強さというものを感じさせられました。

シンガポールでは、国全体が淡路島くらいということもあり計画性があり工業地帯、住宅地帯等が区別され、建物の緑と道路がうまく調和し、モラルもよく、ゴミを落しても木を折っても罰金とには頭がさがる思いでした。

公共の場所や灰皿のない場所でタバコを吸ったら罰金というのにはびっくりと驚きました。

マレーシアでは、田舎の開拓地へ行き、日本海外協力隊の人たちとあい、彼らの苦労話や活躍ぶりを見たり、聞いたりし、また現地の人々に暖かく迎えられたりした反面、文化的なものを置き忘れた念のあることは、残念ながら認めなければならないと思う。

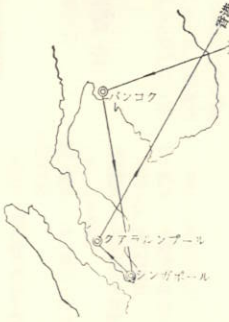
外国に対しても企業の進出はあっても、文化的なものの輸出がないことも事実だろう。

日本のような資源のない国は、外国に対し文化的なものも知ってもらい、真の友好関係を結ばなければ、長く仲良くやって行くことはできないのではないだろうか？

今回の研修でも、私たちも海外のようすを見てやろう、知ってやろうという気持ちも大切ですが、日本を知ってもらおう、私たちを見てもらおうという気持ちが大切なのではないだろうかと思った。

そのためにも、是非英会話ぐらいはできるように努力しようと思っています。

山田長政ゆかりの地、アユタヤ日本人町跡にて（タイ） （畑中）（山本）



海外研修雑感

湊浦 清水幸雄（三十歳）

県内には各種の青年団体がありますが、その十八団体で構成していま す愛媛青年 社会参加会議主催、愛媛県、各市町村後援による五十一年度海外研修事業として、東南アジア三カ国（タイ、シンガポール、マレーシア）に、私は愛媛県青年海外交流協会員として五月十二日から十三泊十四日間の日程で参加しました。

県内各地の各種団体、各職場よりの青年三十四人が行動を共にしたわけですが、そのうち三人が伊方町よりのメンバーである畑中芳久、山本睦夫両君（青年団の現役リーダ）がいっしょなので心強い思いで研修旅行に参加することができました。

簡単に訪問地を追ってみますと第一訪問国タイでは、バンコク、アユタヤ、バンサレー、パタヤ

第二訪問国シンガポール、ここは一国一都市で日本の淡路島の大きさくらい、現在工業国として目覚ましい発展途上している国です。

第三訪問国マレーシアでは、クアラルンプール、テマロ、ジエンカと訪問し、各国の青年たちと交歓、交流を行いホンコン一泊経由にてのコースでした。

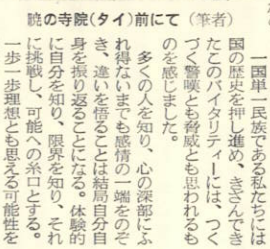
これだけ訪問しますと、二週間もすぐ消化してしまい忙がしいスケジュールでしたが、それでもタイでは東洋のハワイといわれるパタヤビーチでの水泳を楽しむこともできました。

また各国の訪問先での現地青年たちとの交歓会では、歌ったり踊ったり、語り合ったり楽しいふん囲気のもとでした。

不思議なもので、現地エリート青年の流調な英語と現地語、日本語、「アジアにおける中国」テーマにしました。

昨年四月中国へ二週間「東海四国青年の船」に参加することができ、今回は同じアジアアセアンの三国訪問ということで非常に興味わわき、意義もあると期待しておりました。

もう一つには「限界への挑戦」



暁の寺院（タイ）前にて（筆者）

このことについては、少々ユニークな蹴子はずれは免れませんがこのことを記したいと思います。

国員それぞれ参加するにあたりテーマを持っていましたが、私は「人」というテーマにしました。

コース外でしたがバンサレーよりバスで一時間のところ、折角のチャンスというので数人で別行動をとったのですが、日本ならさしずめ松林が続く海岸線。ここでは一幕もあり、楽しく愉快でもありました。

字数に制約もありますので訪問国の状況は機会が得られればいろいろとにしまして、私の海外旅行語で話していると、こちらのお粗末な英語、現地語、日本語とミックスで話しているうちに、日本団員の話す日本語までが変な蹴子はずれになっており、思わず大笑いもしました。

東南アジア訪問国における中国人については各国共、共通した立場、影きょう力を持っていると思われます。いわゆる華僑と呼ばれる人々の各国における政治、経済、文化、風俗への影きょう力をほんの一端を見聞した。

一国単一民族である私たちには国の歴史を押し進め、きたえてきたこのバイタリティーには、つづく驚嘆とも脅威とも思われるものを感じました。

多くの人を知り、心の深部にふれ得ないまでも感情の一端をのぞき、違いを悟ることは結局自分自身を振り返ることになる。体験的に自分を知り、限界を知り、それに挑戦し、可能への糸口とする。一歩一歩理想とも思える可能性を現実的に体験する。その意味も含めて海外研修に参加した所以でもあります。

当然のことながら国際感覚に対する豊かさへの対応策の一環でもあるわけです。

その中から我々祖国日本の、まだまだ未熟な点、また今回参加して感じ得たこと、また各国の現地青年たちとの交歓会では、歌ったり踊ったり、語り合ったり楽しいふん囲気のもとでした。

不思議なもので、現地エリート青年の流調な英語と現地語、日本語、及び中国語で話しているうちに、日本団員の話す日本語までが変な蹴子はずれになっており、思わず大笑いもしました。

昨年四月中国へ二週間「東海四国青年の船」に参加することができ、今回は同じアジアアセアンの三国訪問ということで非常に興味わわき、意義もあると期待しておりました。

もう一つには「限界への挑戦」に挑戦し、可能への糸口とする。一歩一歩理想とも思える可能性を現実的に体験する。その意味も含めて海外研修に参加した所以でもあります。

当然のことながら国際感覚に対する豊かさへの対応策の一環でもあるわけです。

その中から我々祖国日本の、また今回参加して感じ得たこと、また各国の現地青年たちとの交歓会では、歌ったり踊ったり、語り合ったり楽しいふん囲気のもとでした。

不思議なもので、現地エリート青年の流調な英語と現地語、日本語、及び中国語で話しているうちに、日本団員の話す日本語までが変な蹴子はずれになっており、思わず大笑いもしました。

昨年四月中国へ二週間「東海四国青年の船」に参加することができ、今回は同じアジアアセアンの三国訪問ということで非常に興味わわき、意義もあると期待しておりました。

もう一つには「限界への挑戦」に挑戦し、可能への糸口とする。一歩一歩理想とも思える可能性を現実的に体験する。その意味も含めて海外研修に参加した所以でもあります。

当然のことながら国際感覚に対する豊かさへの対応策の一環でもあるわけです。

その中から我々祖国日本の、また

見て歩いた三カ国

仁田之浜 畑中芳久（二十八歳）

初めての海外三カ国訪問の期待感と片言の英語で果して意思が通じるであろうかの不安感。

こうした複雑な心境の中で参加しました。

しかし不安な〝ことば〟の点は現地に着くなり消え、行くところ日本語を話せる人が多いのには驚きました。

タイでは、民族舞踊、メナム川の水上マーケット、暁の寺院、山田長政で有名な日本人町アユタヤ、海水浴場パンサレ村を見学。

この国で感じたことは、寺院の豪華さと貧しい人が多いこと。特にの観光地に行っても子どもたちが執拗に土産物を売りつけている姿をみた。これは学校に行くことよりも生活するために働いているとのことです。こうした姿を見た時、日本の子どもたちは幸福であることを痛感しました。

街はゴミだらけで不衛生である一方、おもしろいと思ったのはタクシーは交渉して値段を決め、定員もなく六人でも七人でも乗れるだけ乗せるということです。

シンガポールでは日本大使館訪問、日本人学校、植物園ヒスイの家見学、港めぐり、日本人墓地を参拝しました。

この国は独立後〝清潔で緑豊かに〟をスローガンに掲げてきただけあって、本当に美しい国でした。

街を歩いてもゴミが見当りません。

国は複合人種国家で、宗教も仏教、キリスト教、回教、ヒンズー教と多彩であり、言葉も四カ国からなっています。

また、この国の特質は政府と人民協会が密接なつながりを見せていることです。この人民協会の仕事は、全種族の文化交流であり、そのことによってシンガポーリアとしての国民の一体性に努力しているようです。

シンガポールの人民協会による舞踊
＝盛んな青年の文化活動＝

初めての海外三カ国訪問の期待感と片言の英語で果して意思が通じるであろうかの不安感。

こうした複雑な心境の中で参加しました。

しかし不安な〝ことば〟の点は現地に着くなり消え、行くところ日本語を話せる人が多いのには驚きました。

タイでは、民族舞踊、メナム川の水上マーケット、暁の寺院、山田長政で有名な日本人町アユタヤ、海水浴場パンサレ村を見学。

この国で感じたことは、寺院の豪華さと貧しい人が多いこと。特にの観光地に行っても子どもたちが執拗に土産物を売りつけている姿をみた。これは学校に行くことよりも生活するために働いているとのことです。こうした姿を見た時、日本の子どもたちは幸福であることを痛感しました。

街はゴミだらけで不衛生である一方、おもしろいと思ったのはタクシーは交渉して値段を決め、定員もなく六人でも七人でも乗れるだけ乗せるということです。

シンガポールでは日本大使館訪問、日本人学校、植物園ヒスイの家見学、港めぐり、日本人墓地を参拝しました。

この国は独立後〝清潔で緑豊かに〟をスローガンに掲げてきただけあって、本当に美しい国でした。

街を歩いてもゴミが見当りません。

国は複合人種国家で、宗教も仏教、キリスト教、回教、ヒンズー教と多彩であり、言葉も四カ国からなっています。

また、この国の特質は政府と人民協会が密接なつながりを見せていることです。この人民協会の仕事は、全種族の文化交流であり、そのことによってシンガポーリアとしての国民の一体性に努力しています。そのため四百タイプもの行事を催しているほか、青年部門は全国に百六十七のコミュニティセンター（公民館）を舞台に昼夜をとわず、スポーツや芸術活動を展開しています。

国の資源は青少年であるといって青少年教育、青年の技術訓練に力を入れており、日本も見習う点があると思いました。

マレーシアでは青年海外協力隊活動地とか、ゴム園等を見学しました。

特に私がいまでも気になっているのは、四年程度日本に留学していたというマラヤ大学のラジェンドラン教授の〝マレーシアと日本〟という講義の中で「日本は東南アジアの国々に対して経済進出はするが、文化の輸出がない。経済の輸出ばかりに熱心だ、日本はそのうち中国にとって代わられますよ。中国には文化も思想もありますからね」。この言葉でもわかりますように将来の日本を考える時、経済の輸出ばかりでなく文化の輸出についても真剣に考える必要があると思います。

最後に三カ国とも、現地青年との交歓会はたいへん楽しかったのですが「日本に対して賛美と期待をしているが、反面恐怖としっと を抱いている」といったマラヤ大学教授のことばが、私の脳りから離れない。

東南アジアの国々を含め、世界各国から好かれる日本にしたいものです。

大切に育てたい奉仕精神

青年団がカーブミラー清掃

楽しい会話の中で、清掃作業は順調に進みます

青年団が町内国道沿線に設置されているカーブミラーの清掃作業を行ないました。

これは、国道沿線のカーブミラーがちり、ほこり等で汚れがひどくなっていることに気づいた団員三十人が自主的に奉仕作業を実施したものです。

奉仕精神の欠如が問題となっている世相の中で、青年団員自ら卒先して実行した行為に拍手をおくりたいと思います。

町内の国、県、町道、農道には数多くのカーブミラーが設置されており、交通事故防止のうえで大きな役割を果たしていますが、以前は投石等で破損箇所が多く見受けられました。しかし、この最近は、こうした感覚ないたずらもなくなりつつあるようにはしい限りです。

みんなが利用する公共施設は、大切にしましょう。

VYS会員がペンキ塗り

子どもたちの広場が、会員の手によって美しく化粧おなしできました

伊方町VYS連絡協議会（会員二十一人）でも、町内の児童遊園地を清掃したり、ペンチ、ブランコ、スベリ台などの遊具類のペンキの塗りかえ作業を行ない子どもたちによろこばれています。

このVYS連絡協議会は、昨年の八月に結成され、この間児童遊園地のペンキ塗りのほか、町が実施した歩け歩け運動に参加して、楽しいゲームや歌を子どもたちに指導。また独居老人を訪問し、女性会員が手編みでつくった「肩かけ」を贈るなど、VYS精神の・友愛・・奉仕・・理想・の三つの柱を軸にしてそれぞれ活動しています。（なお、会員は役場、保育所の職員がほとんどですが、入会者を歓迎しています。希望者は福祉課まで連絡してください）

◇　◇　◇

町内にはこうした青年団、VYS会員の奉仕活動のほか、日赤奉仕団、各小中学校の児童、生徒たちもグループで地区内、神社などの清掃を行っています。

こうした奉仕精神は、明るく美しい町づくりのため、みんなで大切に育てたいものです。

40・45・55歳のみなさん

誕生日検診は終りましたか

本年度中に満年齢で四十歳、四十五歳、五十歳の誕生日を迎えるみなさん、誕生日検診は終りましたか。

まだの方は、指定医院（小川医院、伊方診療所、栗田医院、加間診療所）で検診を受けてください。

料金は無料です。

医院では血圧検査、心電図、尿検査、内科診察を行います。

みなさんは「まだまだ若いし病気などの心配はない」と思われているかもしれませんが、成人病は働きざかりの一家の柱が病気で倒れてはたいへんです。

・ころばぬ先の杖・とか申しますが、成人病は早期発見、早期治療が何より大切です。

こうした意味での誕生日検診が実施されているわけです。

このよい機会に是非受診してください。

受診期間は、五十二年三月二十日までですが、お忘れにならないうちに早目にどうぞ！

自分のからだは、自分で守るしかないのです。

郵便局からのお知らせ

昭和四十九年九月二十三日以前に預けられた定額貯金証書をお持ちの方へ

郵便局では、ただいま昭和四十九年九月二十三日以前に預けられた「定額貯金」を、こんどとも引続き預けられる方に、利息が有利になる手続きを取り扱っています。

手続きは簡単です。

「定額貯金証書」を近くの郵便局の窓口まで持参されれば、郵便局では、貯金証書に「㊟」と表示をいたします。

この取り扱いは、昭和五十二年一月十三日までですが、まだ済んでおられない方はお手もとの貯金証書を確かめられ、早目にこの手続きを済ませてください。

くわしくは、郵便局の窓口へどうぞ！

◇　◇　◇

注＝㊟とは、昭和四十九年九月二十四日に郵便貯金の利率が引き上げられましたが、それまでに預けられた貯金にも高い利率を適用するための手続きです。

伊方の若人

①職　業　②趣　味
③好みの異性タイプ
④伊方町をどう思いますか
⑤町づくりに対する希望

米沢義彦さん

須賀　22歳

①大工としてがんばっています。
②お酒を飲みながら若い仲間といっしょになって話すこと。それにドライブ旅行。
③ちょっぴりかわいくて、心の美しいすなおな女性がいいなあ！
④部会にくらべ、人と人との結びつきがあって、良い町だと思う。こんどもこうしたコミュニティーは大切に育ててほしいです。
⑤自然の美しさを残し、小鳥のさえづりや、魚の釣れる町であってほしい。それにもう一つ、半島特有の人情味豊かな幅の広い人間を育ててほしい。

島本睦子さん

仁田之浜　19歳

①町商工会に勤務しています。
②う～ん!!手あたりしだいのものに対してすべてに興味がわくんだなあー。
③この種の質問はどうもニガテ、一見答えられそうでいて簡単にこうだといえない。そうだなあー自分に対して刺激的要素を多分に持ち合わせた人。脳で感じられる人がいい。
④町自体もう少し前向きの行動力があっていいと思うのよ。与えられた活気で満足するのは、あまりにも貧しいと思わない？
⑤その時その時の世の中に適合した、それでいて伊方町として個性ある町であってほしいです。こくのある町、そして人々……。

自動車と税金

現代はグルマ社会といわれるほど自動車はわたくしたちの生活の中にとけ込んでいますが、自動車にはどんな税金がかかっているのか知っておられますか。

自動車にかかる税金には、国税として、物品税（乗用自動車のみ）と自動車重量税が、また、地方税として、自動車取得税や自動車税、軽自動車税があります。

いっぱう、自動車の燃料については、国税として、ガソリンには揮発油税と地方道路税が、LPガスには石油ガス税がかかります。

また、地方税として軽油には軽油引取税がかかります。

このように自動車にはいろいろと税金がかかっていますが、これらの税金は、主に道路を整備するための費用として使われています。

川高が夏期開放講座を開設

希望者は申込みを

川之石高等学校では、夏休み期間中を利用して開放講座を開催することになりました。

受講希望者は八月十日までに町教育委員会までご連絡ください。

◎日時　八月二十一日（土）
午前九時から午後一時まで

◎男子コース
園芸講座（草花一般）
講師　福岡貞明先生
盆栽講座
講師　中川義男助手

◎女子コース
加工講座　講師　三好和正先生
料理講座　講師酒井智陽子先生

◎講座内容
園芸講座……特に草花一般の栽培、つぎ木等。
盆栽講座……各種盆栽の管理、仕立て方、肥培管理等。
加工講座……各種保存食品のつくり方、清涼飲料水のつくり方
料理講座……スタミナ料理のあれこれ、健康増進料理。

主催＝県立川之石高等学校
後援…保内町教委、保内町中央公民館、伊方町教委、伊方町中央公民館、八幡浜農業改良普及所

人

昭和51年5月末現在
世帯数2,555戸（－1戸）

人口　9,050人（男4,295人（＋2人）
（－2人）女4,755人（－4人））

えんむすび

昭和51年5月1日
5月31日

お誕生おめでとう

昭和51年5月1日
5月31日

おくやみ

昭和51年5月1日
5月31日

＝お礼＝

大阪府柏原市河原町一番府営住宅一棟八〇二号にお住いの山本清光氏（伊方越出身）より二千円。

松山市小栗一丁目五の二十九にお住いで以前に二見小学校長をされていた阿部初男氏（九町出身）より五千円。

神戸市兵庫区塚本通り五丁目一の十三御旅木市場で上田青果を経営されている上田要氏（鳥津出身）より一万円。

尼崎市武庫之荘武庫市場内にお住いの竹上一人氏（鳥浦出身）より一万円。

尼崎市東富松字五反田六六三の一にお住いの竹上正人氏（鳥津出身）より五千円。

神戸市兵庫区塚本通り五丁目十五にお住いの上田晴雄氏（鳥津出身）より五千円。

神戸市兵庫区塚本通り五丁目八の十二にお住いの上田博祥氏（鳥津出身）より五千円。

愛知県東海市加福町西平子一九一二にお住いの池田悦子さん（旧姓金山＝二見出身）より三千円。

それぞれ広報編集費用にとご寄付いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともにご健康とご活躍をお祈り申し上げます。